

斜陽

今日は、太宰治生誕百年ということで、様々なイベントが催されています。彼は津軽屈指の大地主の家に生まれましたが、三鷹に住み玉川上水に入水したことで、多摩にも縁浅からぬ人です。彼は情感豊かで傷つきやすい青年の心性をもち続けた作家で、特に若い人には人気が高く、太宰病という言葉さえあります。『斜陽』は、戦後の混乱期に没落せざるを得なかった人々の悲劇を描くことで、時代を象徴する作品となりましたが、主要な登場人物に自身の分身を摺り込ませて書いたともいわれています。特異なタイプの私小説を得意とした彼の特徴がよく表れた作品といえます。若いときの感性でしか味わい取れない読書の喜びがあります。学生時代にぜひ一度読んでみてください。



◎斜陽 (太宰治)

(教育課程・加藤 明)

君は世界に一人

一校長として語ったこと、書いたこと

本学着任前、高校長時代9年間の講話等を編集長に勧められ出版したものである。もう10年近くも前の本なのに都内の書店に横積みになっていたと聞いて驚いた。本学図書館にあるので興味があったら手にとってほしい。

小生は、今年度一杯で教職48年を修了するが、その間常に、「君は世界に一人しかいないのだから自分を大切にしてほしい」と語り続けてきた。とはいえ、「話す」とは「放つ」からきた言葉だというのが、的を射て話すことはなかなか難しいことである。

(児童体育・吉野尚也)

本学教員著書



◎君は世界に一人一校長として語ったこと、書いたこと(吉野尚也)

高校教師の心得

図書館で定期購読している月刊誌『教員養成セミナー』(時事通信出版局)で、服部次郎先生の「高校教師の心得」が連載されています(10月号より1年間の予定)。若い教師にとっての「心得」とは何かについて、ご自身の体験なども踏まえて丁寧に解説されています。「本学学生をイメージして書いています」と服部先生。毎月チェックしてください!



◎教員養成セミナー 10月号

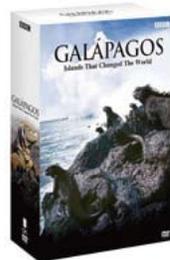
DVD「ガラパゴス」で想いを馳せる

◎「ガラパゴス」(全3巻)(DVD)

ダーウインが生物の進化を考えるきっかけになった南米エクアドルのガラパゴス諸島は、私が死ぬまでにぜひ一度行ってみたいと願っている場所です。

大陸から1000キロメートルも離れて孤立していたため、独特の特徴をもったペンギンやイグアナ、島ごとに異なる進化を遂げたフィンチや陸ガメが生息しているのです。

ガラパゴスの環境・生物を紹介しているこのDVDを観ながら、自然環境の美しさを味わい、種の進化・人の自然環境への影響を考えてみましょう。そして、ダーウインの「種の起源」を読んでみませんか。(理科・圓谷秀雄)



◎ガラパゴス

Information

①学生用パソコンが全部で25台になりました。

Windows Vista 15台
プリンター付
※カウンターで申し込みが必要です

Windows XP 10台
※カウンターで申し込みは不要です



②図書館のデータベースが、校内どの端末からでも利用できるようになりました。

LIVRE10号発行によせて

新図書館ができたのを機会に、それまでの図書館だよりを一新して図書館広報誌「LIVRE」が誕生しました。

写真やカラーを多く取り入れ学生に親しみやすく読みやすくすること、教職員から学生まで広く記事を集めることをコンセプトに発行して参りました。おかげさまで今回、記念の10号をお届けする運びになりました。

この小誌が皆さんにとって図書館や本をより身近に感じ親しむことに役だってくれることを、図書館委員、職員一同願っています。今後とも「リーブ」をかわいがってくださいますようお願い申し上げます。

(図書館長・宿輪忍生)

LIVRE

リーブ

学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学附属図書館報

2009.11 No.10

10号記念特集



撮影・写真部

本

と

私

私にとって幼い頃から本は、たくさんのアドバイスをくれる存在であり、現実逃避の手段でした。読書が現実逃避の手段なんてどんなに根暗なんだろうと考える方もいるでしょう。しかし、本の世界に入ると嫌なことや日ごろのストレスなどを忘れられます。一冊の本を読み終わる頃には何か達成感のようなものが心の中に残ります。本は自分との向き合う時間を作り出してくれるものかもしれません。

(児教1年・高橋亜季)

私は、「夜は短し歩けよ乙女」という本をお勧めします。この本は大学のクラブの後輩である乙女に恋する「私」、彼の想いをことごとくスルーする天然すぎる乙女、そんな彼らをとりにくく奇妙な登場人物が織りなす、京都の街を舞台に起きる数々の珍事件を綴った面白おかしな物語。古風で洒落た言い回しを駆使した文章がさらに物語を魅力的にさせていて、乙女が夜の街を冒険しながら出会う人々や経験は思わず私も冒険の旅に出てみたいと思ってしまうほど、引き込まれる作品です。(学部3年・和田夏樹)

◎夜は短し歩けよ乙女 (森見登美彦)



私はこれまで、本のタイトルを見てこれだ!と思ったものを読んできました。しかし、それでどれだけ失敗してきたことか。「○○攻略法」とか「○○早わかり」「○○成功術」の類の本です。中でも「買ってはいけない」本がブームになった時いち早く買ったら、すぐ「買ってはいけない本は買ってはいけない」がでて、猛省しました。もうタイトルには踊らされないぞと。でも、よかったものもあります。養老猛司『バカの壁』や斎藤孝『身体感覚を取り戻す』です。これらは「これからは体育の時代だ!!」と気付かせてくれた本です。

(ダンス・奥野知加)

◎身体感覚を取り戻す―ハラ文化の再生 (斎藤孝)



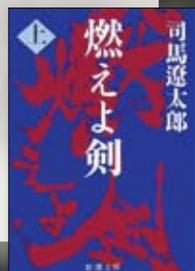
◎バカの壁 (養老孟司)



私にとって本とは人生の引き出しを増やしてくれるもの。店に行くについ歴史小説のコーナーで足をとめてしまう。様々な時代の小説がある中、私が特に好きなのは幕末から明治初期の時代。信念をもった志士の生き様が好きで、それがよく描かれていると思うのが司馬遼太郎の作品。王道だが読み易い『燃えよ剣』。長編だが『竜馬がゆく』『翔ぶが如く』はとて面白く読める。昔と今、時代は全く違うかもしれないが変わらないものもある。信念を持って生きたいと気づかせてくれる本とこれからも出会っていききたいと思う。

(球技・佐藤理恵)

◎燃えよ剣(司馬遼太郎)



私は大学卒業後、民間会社の勤務を経て高等学校の教員になりました。今、振り返ってみると、石坂洋次郎の小説は私の教職への憧れと実現への後押しをしてくれたと思っています。実際には、教職に就いてから読んだ作品の方がずっと多いのですが・・・『青い山脈』という歌を聞いた人がいると思います。これは小説『青い山脈』が映画化された時の主題歌です。すでに何回も映画化されており、時代を超えて受け入れられています。教職を目指している皆さん、一度、石坂洋次郎の作品に目を通してはいかがでしょうか。

(教育工学・北島敬己)

私は円盤投げで調子が良いとき「足の裏に目がついている感じ」がします。大学4年生になるまで全く意味不明だったその言葉の意味が様々な経験を通して少しずつわかるようになってきました。そんなある日、本屋さんでこの本を見かけ表紙を見て衝動買いしたのです。内容も想像通りで、トップアスリート達の感性を覗いてみたいという好奇心を満たしてくれる一冊でした。感性を磨くには、「本物の凄さ」をみて感動することが大切です。ぜひ在学中に視野を広げいろんなモノに触れてください。そして本書で一度、ワクワクしてみてください。

(陸上競技・高梨雄太)



◎岡田武史監督と考えた「スポーツと感性」(志岐幸子)